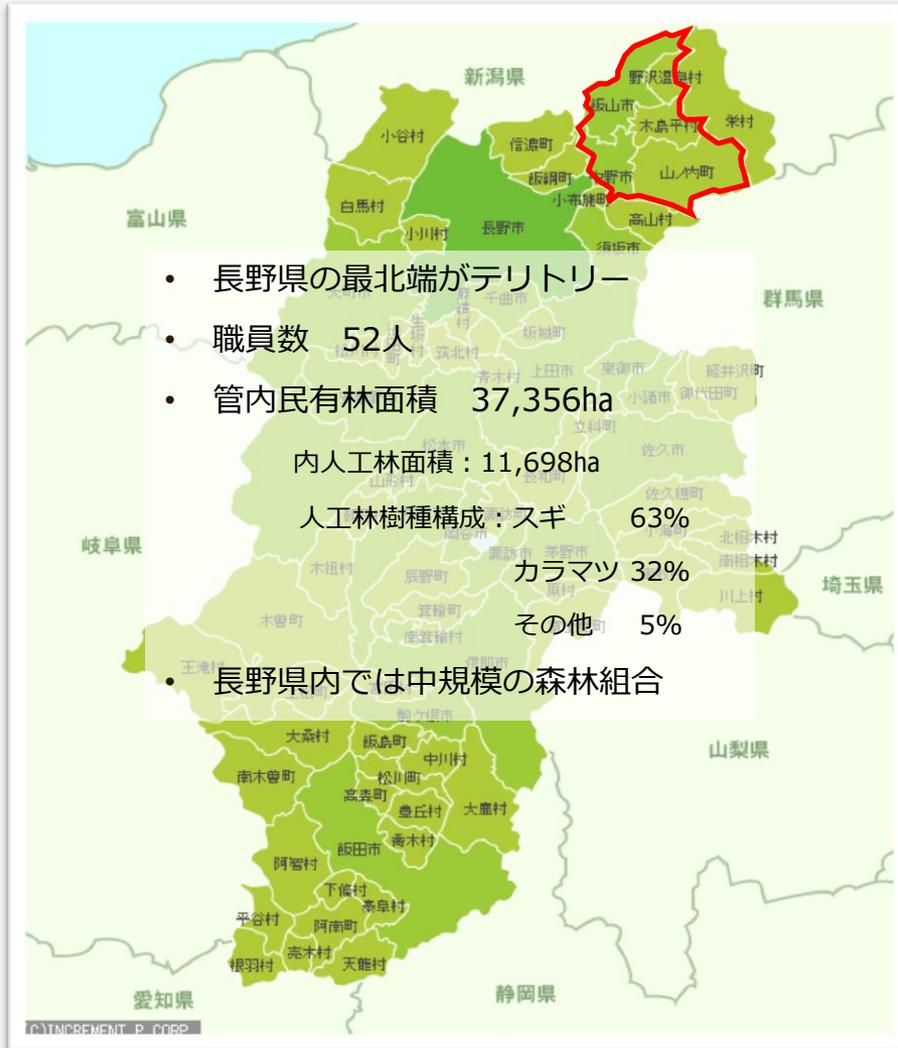


# 集約管理による 小規模森林経営 の展望

# 北信州森林組合の概要



最寄駅は北陸新幹線  
飯山駅



温泉



スノーリゾート



信越トレイル



スノーモンキー  
(地獄谷野猿公苑)



果樹いろいろ

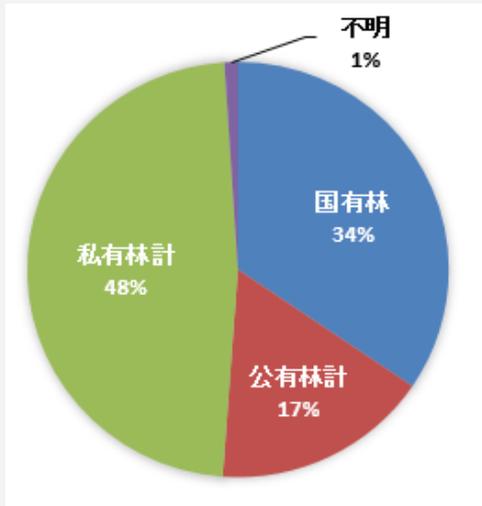


おいしいお米



そば処

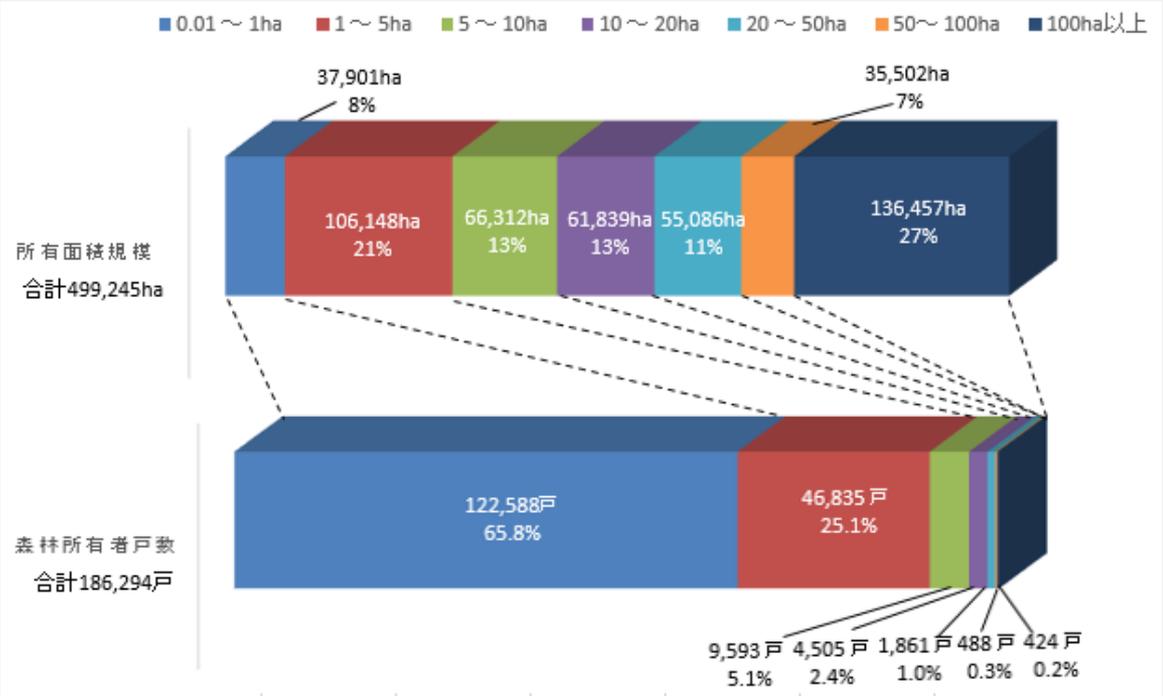
# 小規模分散型の私有林が多い



長野県内森林の所有形態



北信州管内の人工林平均面積は0.4ha



私有林の所有面積別割合

同様の地域が全国的に多く存在

# 所有規模の問題が森林利活用の足かせ

小規模森林では

- 路網整備などのインフラ整備が停滞
- 機械化などによる生産コスト低減効果が出にくい
- マーケットとの連携が難しい
- そもそも経営として成立していない林分が大半



管理放棄が顕在化



北信州森林組合の取り組み

# 地域集約による受託管理

森林所有者から委託を受け広域一団の集約管理を推進

地域単位で集約化

24地区 5,500ha ↓ 長期管理委託契約

中期計画

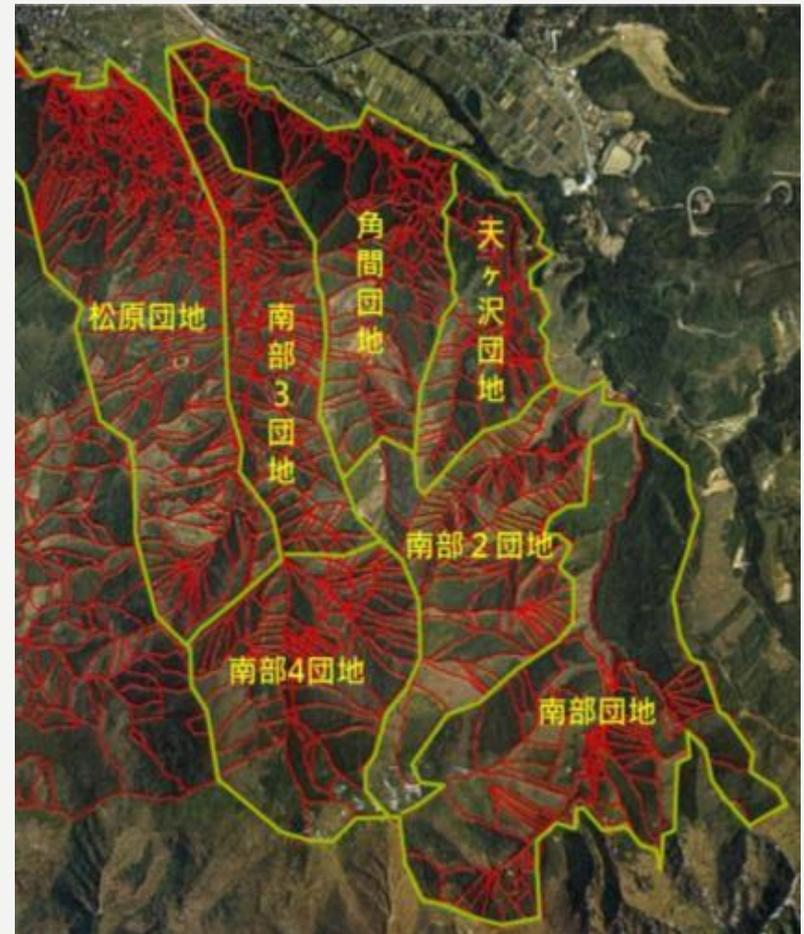
↓

事業実施計画

36団地 3,750ha ↓ 事業委託契約

年度計画（年間工程）

団地別ロードマップ（中期計画）



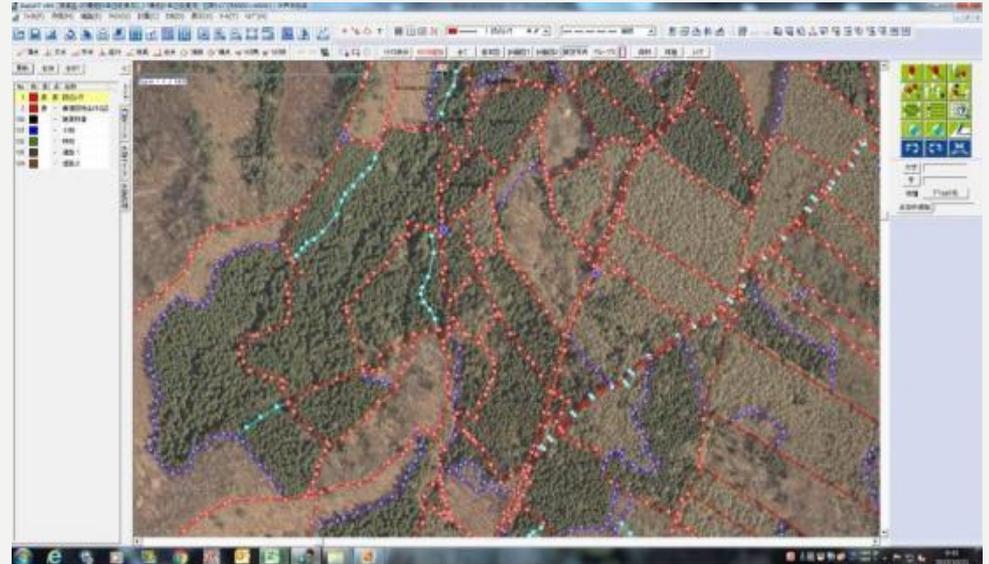
# 情報インフラ整備（その1）

## 森林境界明確化

- 経営管理の放棄で不明化した森林の所在や境界線を調査
- 管内民有林のうち6,000ha（2005年からの累計）をデータベース化



森林管理の情報資産として地理情報システムで運用

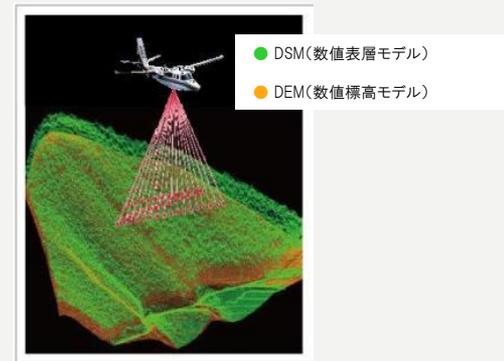


北信州森林組合の取り組み

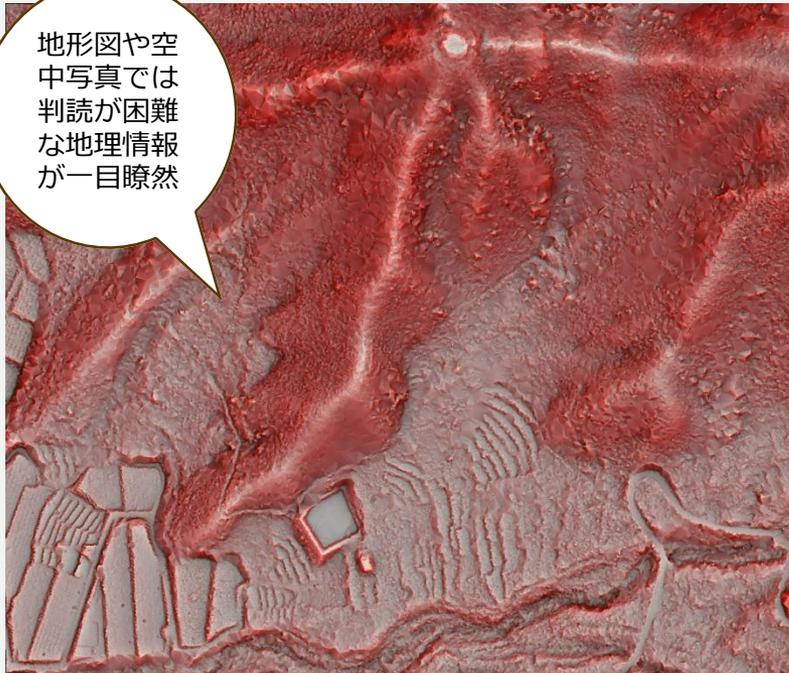
# 情報インフラ整備 (その2)

レーザセンシングによる高精度森林情報を取得

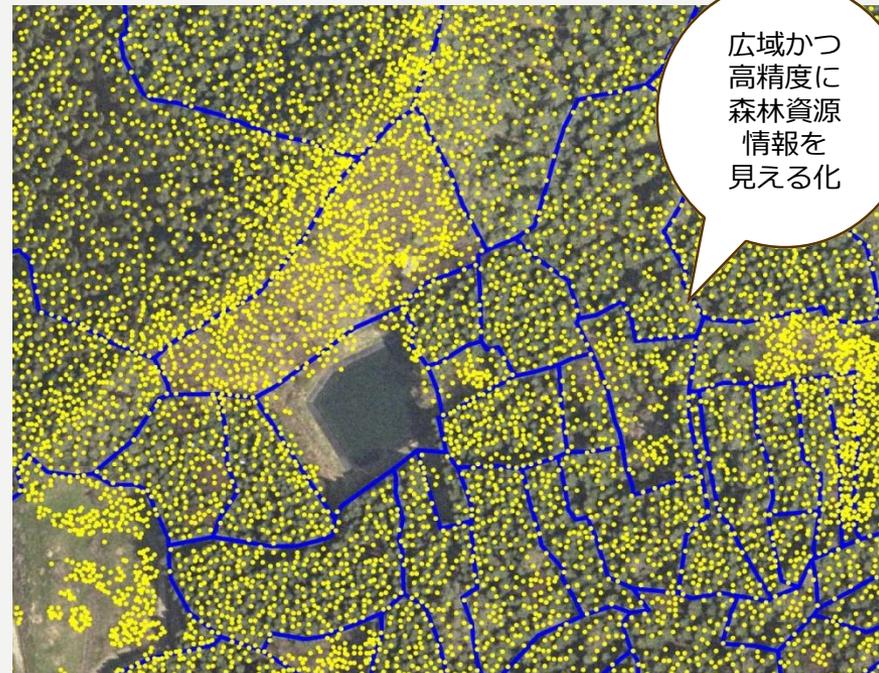
- 森林資源情報 (蓄積量、樹高などの単木情報)
- 高精度地形情報 (数値標高データ、微地形表現図)
- 人工林の全域を網羅



地形図や空中写真では判読が困難な地理情報が一目瞭然



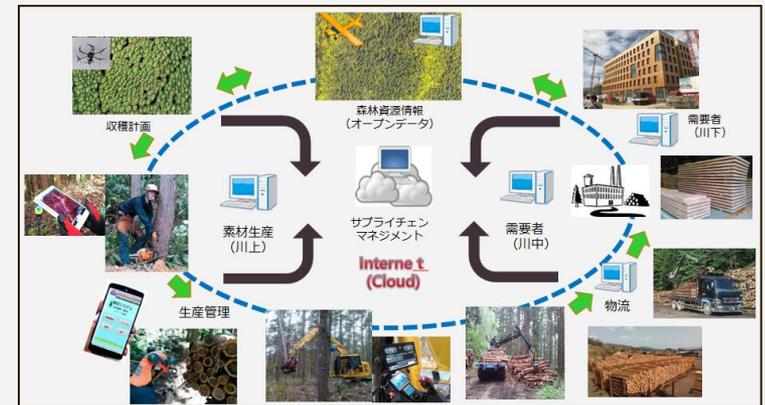
広域かつ高精度に森林資源情報が見える化





# あらたな森林管理スキームへ

- 受託による集約管理の限界
- マーケットとの連携の深化
- ファイナンスの成否がこれからの森林経営のカギ
- 不採算林分の取り扱い



サプライチェーンの概念図

- 森林信託など所有権と経営権の分離を推進
- プロジェクトベースのサプライチェーン構築
- サプライチェーンをベースにしたプロジェクト・ファイナンスの誘導
- PES (Payment for Ecosystem Service)\*として環境林へ移行

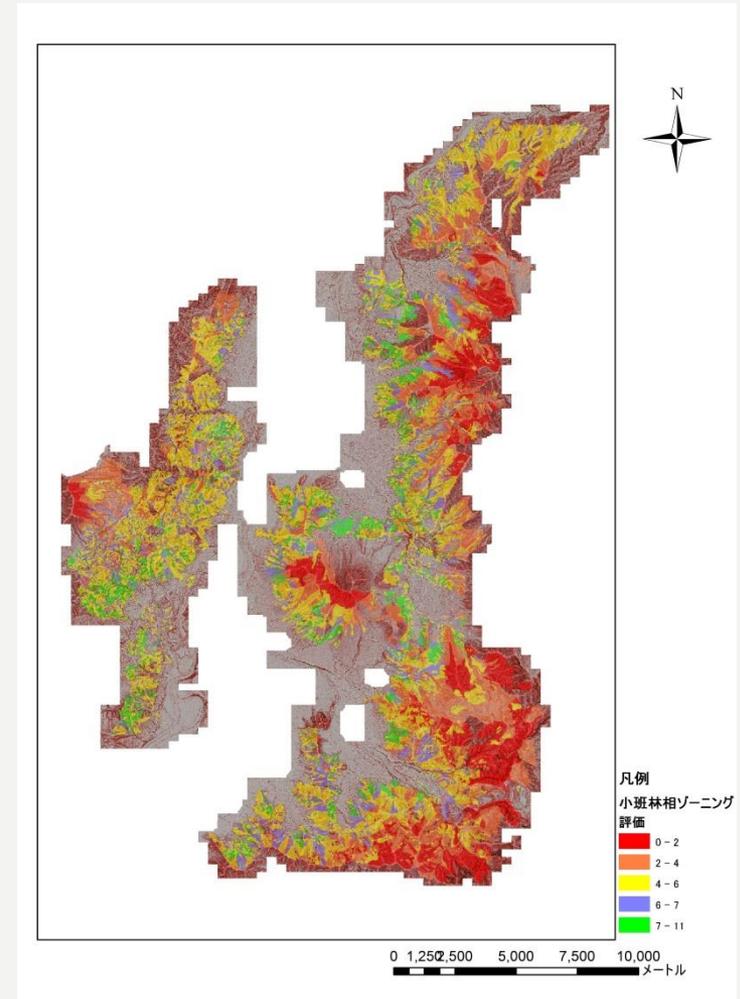
\*PES (Payment for Ecosystem Service) : 生態系サービスに対する支払い

# おわりに

- 集約管理を進めることで、逸失した情報が回復し、管理基盤の再構築が可能になる。さらに、その発展形により、森林資産の流動化が進展し、潜在化した価値の掘り起こしができる。
- 森林経営管理制度が創設され、自治体が森林管理権の集積を行う動きもあるが、弱体化した地方林務行政では荷が重く、手に負えないという自治体も少なくない。
- 民間（産業）イニシアチブで積極的に集約管理（経営主体の転換）を進めるべき。
- 境界明確化などインフラ整備加速のため、公的資金（森林環境税など）を積極的に運用すべき。



可能性は大きいですが、課題山積であることに変わりはない。変革には相当な荒療治が必要。



レーザデータ解析による森林評価ゾーニング